国立国語研究所学術情報リポジトリ

表紙,目次,奥付,その他

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-03-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://repository.ninjal.ac.jp/records/2176

日本語科学

Japanese Linguistics

20

2006年10月

October, 2006

国立国語研究所

The National Institute for Japanese Language

Tokyo, Japan

日本語科学　20

Japanese Linguistics 20

国立国語研究所
The National Institute for Japanese Language

2006年10月
October, 2006

研究論文　Articles

台湾残存日本語にみられる否定辞「ナイ」と「ン」— 花蓮県をフィールドに —
Negation *-nai* and *-n* in Taiwan Japanese : The case of Hualien prefecture
簡　月 真　CHIEN Yuehchen　5

格助詞「へ」で終わる広告コピーにおける「へ」の機能
— 格助詞「に」との互換性という観点から —
The functions of the Japanese case marker *e* when used at the end of advertising copy : From the viewpoint of interchangeability with the case marker *ni*
李　欣 怡　LEE Hsinyi　27

三者面接調査における回答者間の相互作用
— 同性の友人同士の場合 —
Interaction between respondents in three-party survey interviews : Interviews with pairs of same-sex friends
熊谷　智子　KUMAGAI Tomoko　47
木谷　直之　KITANI Naoyuki

調査報告　Report

非漢字圏日本語学習者の漢字学習意識に関する研究
— スリランカの学習者を対象として —
Perceptions of *kanji* learning by non-native learners of Japanese as a foreign language : Data from Sri Lankan learners
ガヤトゥリ　ハットトワーガマゲ　GAYATHRI Haththotuwa-Gamage　67

書評　Review

国立国語研究所編『太陽コーパス　雑誌『太陽』日本語データベース』,『雑誌『太陽』による確立期現代語の研究　『太陽コーパス』研究論文集』
Taiyo Corpus : Language database of the journal *Taiyo* published from 1895 to 1928, Research on the formative era of contemporary Japanese based on the *Taiyo Corpus*
岡島　昭浩　OKAJIMA Akihiro　79

研究所報告　NIJLA Report

山形県鶴岡市における「場面差調査」
Survey on switching between dialect and standard Japanese in Tsuruoka, Yamagata Prefecture
尾崎　喜光　OZAKI Yoshimitsu　89

……

世界の言語研究所（20）　言語資源協会（GSK）（日本）
橋田　浩一　田中　穂積　107

編集委員会からのお知らせ　特集号「コーパス日本語学の射程」論文募集
国立国語研究所公開研究発表会のお知らせ　方言文法の全国分布と全国方言調査の将来像
既刊内容（17～19号）
『日本語科学』投稿規程・執筆要領
『日本語科学』19号正誤表

編集後記

◇編集委員会からのお知らせ◇

特集号「コーパス日本語学の射程」論文募集

『日本語科学』第22号（2007年10月発行）では、「コーパス日本語学の射程」と題した特集号を企画しています。この特集号への論文を、以下の要領で募集します。

●特集「コーパス日本語学の射程」の趣旨

近年、世界各地でコーパスの開発が進むとともに、コーパスに基づく言語研究、スタイル分析、辞書の編纂など、様々な応用が試みられてきています。コーパスに基づく言語研究の可能性は、今後も更に広がっていくでしょう。

翻って日本国内に目を向けてみると、日本語のコーパスはその整備が遅れており、新聞記事テキストや著作権の消滅した比較的古い文学作品などがコーパスとして使われているのが現状です。どのようなコーパスをどのように使えばどのような研究ができるのか、ということ自体、これから議論されるべきテーマの一つと言えるでしょう。

本特集号では、コーパスに基づく日本語研究、すなわち「コーパス日本語学」が、今後目指すべき方向について提起する論文、そしてその萌芽的な実践を行った論文を募集します。コーパスを用いた日本語研究に関する論文であれば、分野は問いません。例えば、以下のような（無論これだけに限らない）トピックに関する論文を募集します。

- 「コーパス日本語学」が目指すべき方向性
- 語の意味の拡張や変遷、使用実態の推移
- 言語の使用場面と文法形式の変異
- 話し言葉に特徴的に現れる言語形式の分析
- 言語外的な要因が発話スタイルに及ぼす影響
- 国語教育・日本語教育・辞書編纂への活用方法　など

コーパスと日本語研究のかかわりについて、様々な立場から論じた論文を集めることにより、今後のコーパス日本語学の振興と発展に寄与することを目指します。皆様からの積極的な投稿を期待します。

投稿方法は、通常論文の投稿規程に準じます。その際、特集号「コーパス日本語学の射程」への投稿であることを明示してください。本特集号への投稿であることが明示されていないと、通常投稿として扱われますのでご注意ください。また、査読の結果によっては通常論文として掲載される場合もありますので、あらかじめご承知おきください。投稿の締め切りは、2007年１月末日（必着）です。

本特集号の募集に関する情報は、国立国語研究所『日本語科学』のホームページにも掲載しています。

http://www.kokken.go.jp/public/kagaku/kagaku.html

◇国立国語研究所公開研究発表会のお知らせ◇

方言文法の全国分布と全国方言調査の将来像

■日時　2006年12月16日（土）14：00～17：30

■会場　国立国語研究所講堂・多目的室（2階）

■内容　1976年に計画を立ててから30年，1979年の調査開始から27年の歳月を経て，このほど2006年3月に『方言文法全国地図』全6巻が完成しました。『方言文法全国地図』は，方言の文法に関する全国分布を明らかにすることを目的とした方言地図集で，全国約800地点を対象とした合計350枚の地図から構成されています。綿密な方針に基づき編集するとともに，調査データや地図の元になるデータの多くを公開している点に特徴があります。今後は，この地図集や膨大なデータをどのように活用していくか，また，国立国語研究所として全国的な方言調査をどう展開していくかが，大きな課題です。今回の公開研究発表会は，シンポジウムとポスター発表を組み合わせて実施します。発表会を通して，多様な角度から『方言文法全国地図』に光を当て，方言分布の分析方法・調査方法などについて討議し，方言文法・方言分布研究の将来を考えたいと思います。

■プログラム■

シンポジウムに引き続きポスター発表を行います。いずれも，題目は変更の可能性があります。

1. シンポジウム〈パネル発表とディスカッション〉（発表順）

佐藤亮一（国立国語研究所・名誉所員）…『方言文法全国地図』作成の経緯と意義

日高水穂（秋田大学教育文化学部・助教授）…『方言文法全国地図』に基づく文法化の事例

中井精一（富山大学人文学部・助教授）…地域研究からみた『方言文法全国地図』の評価と今後の課題

大西拓一郎（国立国語研究所・主任研究員）…方言分布の解明に向けて

2. ポスター発表（発表者50音順）

井上文子（国立国語研究所・グループ長）…間投助詞の全国分布と方言談話資料

大西拓一郎（国立国語研究所・主任研究員）…地理情報としての方言情報

小西いずみ（東京都立大学・助手）…『方言文法全国地図』にみる用言の形態論的変化の方向性

澤木幹栄（信州大学人文学部・教授）…方言文法全国地図資料のデータベース化

三井はるみ（国立国語研究所・主任研究員）…共通語コードの全国調査に現れた方言の影響

鑓水兼貴（国立国語研究所・研究補佐員）…『方言文法全国地図』における共通語化の状況

吉田雅子（国立国語研究所・研究補佐員）…『口語法分布図』と『方言文法全国地図』

※その他，一般向けの概説ポスターも展示します。

■参加費，事前申し込みは不要です。

■問い合わせ先　042-540-4300（国立国語研究所代表）

既刊内容（第17～19号）

【第17号】（2005年４月）

日本語のイントネーションとアクセントの関係の多様性　定延　利之
日本語と韓国語の複数形接尾辞の使用範囲　―文学作品と意識調査の分析結果から―　鄭　惠先
日本語の「逆接」の接続助詞について　―情報の質と処理単位を軸に―　衣畑　智秀
原因・理由表現の分布と歴史
―『方言文法全国地図』と過去の方言文献との対照から―　彦坂　佳宣
「～的」の新用法について　金澤　裕之
自治体職員の行政コミュニケーションに見られる地域差　朝日祥之／吉岡泰夫／相澤正夫
世界の言語研究所（17）延世大学校言語情報研究院（ILIS）と韓国語辞典の編纂（韓国）
徐　尚揆

【第18号】（2005年10月）

名詞述語文，形容動詞述語文，ウナギ文　丹羽　哲也
「話者の移行期」に現れるあいづち　―日本語，台湾の「国語」と台湾語を中心に―　陳　姿菁
断わりとして用いられた日韓両言語の「中途終了文」
―ポライトネスの観点から―　元　智恩
明治初期以降の哲学と論理学の新出語　朱　京偉
日韓の社会人における第三者敬語の対照研究　―アンケート調査の結果から―　金　順任
海外における日本語学習者の学習環境と学習手段　小河原義朗／金田智子／笠井淳子
世界の言語研究所（18）スロベニアの言語研究所と言語資源（スロベニア）
茂木俊伸／アンドレイ・ベケシュ

【第19号】（2006年４月）

敬語動詞における日本語学習者の中間言語の量的研究
―中国人および韓国人学習者と日本語母語話者との比較から―　宮田　剛章
新潟県南部方言のオ段長音開合現象
―老年男・女各１名の音響的実相及び発音口形の比較―
大橋勝男／大橋純一／河内秀樹
指示表現の情意　―語り手の視点ストラテジーとして―　泉子・K・メイナード
近代関西語の順接仮定表現　―ナラからタラへの交代をめぐって―　矢島　正浩
宇和島方言アクセントについて　清水　誠治
コア図式を用いた多義動詞「とる」の認知意味論的説明　松田　文子
シソーラスの可能性　山崎　誠
『分類語彙表』の特徴と位置付け　柏野和佳子
世界の言語研究所（19）言語資料コンソーシアム（アメリカ合衆国）　黒橋　禎夫

『日本語科学』投稿規程・執筆要領

制　　定　平成９年４月
最終改正　平成18年７月10日

１．目的

本誌は，国立国語研究所における研究，並びに国立国語研究所の研究活動と関連を有する研究の成果を公表することを通じて，広範な日本語研究の発展に寄与しようとするものである。

２．発行の時期

本誌は年２回（４月，10月）発行する。(投稿の受付は随時)

３．投稿資格

上記の目的に合致する内容の原稿であれば，投稿資格は問わない。

４．原稿の内容と種類，分量

投稿原稿は未刊行のものに限る。なお，原則として対象とする時代は明治中期以降とする。投稿原稿の種類と分量（タイトル，氏名，キーワード，要旨，概要を含む）は以下のとおりとする。

研 究 論 文：オリジナルな知見の提供を含む学術論文。(20ページ程度)

調 査 報 告：調査結果の記述を主とする報告。(20ページ程度)

研究ノート：問題提起，事例報告，中間報告などの小論文。(10ページ程度)

各投稿原稿は，ＣＤ－ＲＯＭの形でデータやプログラム等を添付することができる。

このほか，所内外の研究者に**展望論文**（研究動向，現時点での課題，将来の展望などについて論じた論文，20ページ程度），**書評論文**（20ページ程度）等の執筆を依頼することがある。

５．原稿の書式

１）原稿は日本語又は英語で執筆する。ただし，例文等において中国漢字（簡体字・繁体字），ハングル，キリル文字，ギリシャ文字を用いることは可（それ以外の文字はローマ字化)。

２）原稿は**Ａ４判横書き，43字×36行**で作成する。(編集委員会が認めた場合に限り縦書きも可。Ａ４判縦書き，30字×21行×２段。）英文の場合はマージン上下2.5cm，左右2cm（フォント12ポイント，1.5スペース）を目安に原稿を作成する。ページ下中央にページ数を入れる。

３）研究論文，調査報告及び研究ノートには，**キーワード**（五つ以内），**要旨**（問題と結論の要約，10行程度），**概要**（議論全体の概要，英文は250語以内，邦文は20行以内）を付ける。邦文論文の場合，要旨・キーワードは日本語，概要は英語を用いる（概要には英語のキーワードも付ける)。英文論文の場合，要旨・キーワードは英語，概要は日本語を用いる（概要には日本語のキーワードも付ける)。英文のネイティブ・チェックは執筆者の責任において行う。

４）注と文献は本文の後にまとめて示す。文献は，邦文・欧文・その他の文字の順で字種ごとにまとめた上で，辞書順に配列する。

文献一覧の書式は以下のとおり。

【書式】

著者名（発表年)「論文タイトル」『書名／雑誌名』巻号（雑誌の場合)，ページ，発行所

【例】

井上優・生越直樹（1997）「過去形の使用に関わる語用論的要因―日本語と朝鮮語の場合―」『日本語科学』1，37-52，国書刊行会

宮島達夫（1972）『国立国語研究所報告43　動詞の意味・用法の記述的研究』秀英出版

Bolinger, Dwight（1978）Yes-no questions are not alternative questions. H. Hiz(ed.) *Questions*, 87-105. Dordrecht: D. Reidel Publishing Company.

Hudson, Richard（1975）The meaning of questions, *Language* 51, 1-31.

5）付属ＣＤ－ＲＯＭにデータ等を添付する場合は，容量やデータの形式等について，あらかじめ編集委員会に確認をとってから投稿する。

6．査読

研究論文，調査報告，研究ノートは，編集委員会が依頼した２名の査読者が査読要領に基づき審査する。編集委員会は，査読結果に基づいて論文の採否を決定する。著者の氏名は査読者に知らせず，査読者の氏名も著者に知らせない。

査読者と著者との連絡（査読者から著者への照会や修正指示，著者から査読者への回答など）はすべて編集委員会を介して行う。

7．投稿の手続き

投稿は随時受け付ける。投稿の際には，以下の(1)と(2)とを委員会に送付すること。なお，投稿原稿は原則として返却しない。

(1) 原稿４部（著者名の入ったもの２部，無記名のもの２部）

(2) 以下の事項を記した「別紙」。

なお，共著の場合，1)と2)については共著者全員の情報，3)と4)については，代表者の情報を記載すること。

1）著者の氏名（読み仮名）

2）所属・職名

3）大学以降の学歴

※　卒業・修了・退学後10年未満の場合のみ必要。

4）連絡先（住所・電話番号・E-mail）

5）原稿の種類（研究論文，調査報告，研究ノートの別）

8．採用決定後の修正

採用決定後，体裁や書式について編集委員会から著者に修正を求める（あるいは編集委員会の判断で書式の細部を変更する）ことがある。査読者及び編集委員会から指示があった箇所を除き，採用決定後の改稿や修正は認めない。

9．著作権

1）他の著作物に掲載された図版の転載等にかかわる著作権処理，及びデータの利用・公開にかかわる関係者の許諾取得は，著者の責任において行うこと。

2）掲載された論文等の著作権（著作権法第27条，28条を含む）は国立国語研究所に帰属する。

3）掲載された論文等の要旨は，*Linguistic Abstracts*（アリゾナ州立大学編集）に英文で掲載

される。

投稿原稿送付先
〒190-8561　東京都立川市緑町3591-2
独立行政法人国立国語研究所　『日本語科学』編集委員会

投稿・編集に関する問い合わせ先
独立行政法人国立国語研究所　『日本語科学』編集委員会
電　話：042-540-4300(代)
ＦＡＸ：042-540-4333(代)　※必ず『日本語科学』編集委員会あて明記のこと。
E-mail：kagaku @ kokken.go.jp　※添付ファイル付きのメールは受信できません。

Instructions for Submitting Manuscripts to *Japanese Linguistics*

1. Purpose of the Journal

The purpose of this journal is to contribute to the development of a variety of different fields in the study of Japanese. To this end, it publishes the results of research done at The National Institute for Japanese Language (formerly The National Language Research Institute), as well as research conducted elsewhere that is deemed relevant to the interests of the Institute.

2. Time of Publication

The journal is published twice a year in April and October. Manuscripts can be submitted anytime and are processed throughout the year.

3. Qualifications for Submission

No special qualifications are required of authors, but all manuscripts must conform to the goals of the journal.

4. Content, Categories and Length of Manuscripts

All manuscripts must be previously unpublished. As a rule, their focus should be on the time period after mid-Meiji. The categories and approximate lengths of manuscripts (including title, name, keywords, abstract, and summary) are as follows:

1) **Articles**: Research papers presenting original ideas (about 20 pages).
2) **Reports**: Descriptive reports of research, surveys and questionnaires (about 20 pages).
3) **Notes**: Short papers that raise questions, case studies, and interim reports of ongoing research (about 10 pages).

Manuscripts may also be accompanied by a CD-ROM of data and programs that will supplement the journal.

The journal may also ask researchers outside the Institute to write prospect papers (i.e., papers on trends in research, current research issues, or future research prospects) (about 20 pages), or book reviews (about 20 pages).

5. Style

1) Manuscripts should be written in Japanese or English. Chinese characters (simplified or traditional), Hangul, Cyrillic and Greek characters or letters can also be used in examples. All other orthographic symbols should be transcribed in the Latin alphabet.
2) Japanese manuscripts should be submitted in horizontal format with 43 characters x 36 lines on A 4 (or 8.5" x 11") paper. (Manuscripts can be submitted in vertical format only with the approval of the editorial committee. Such manuscripts should be prepared with 30 characters x 21 lines in two sections). Englith manuscripts should be prepared on A 4 (or 8.5" x 11") paper and typed on one side only with 2.5 cm margins at the top and bottom and 2 cm margins on the left and right. 12 pt. typeface should be used with line spacing set at 1.5 lines. Each page should have the page number as a footer.

3) All manuscripts should have Japanese and English titles. **Articles, Reports and Notes** should contain the following elements:

Japanese articles, reports and notes:

a) Keywords in Japanese (up to 5 words) and English equivalents
b) Abstract in Japanese (about 10 lines) providing a statement of the problem and solution
c) Text body
d) Summary in English of the overall argument (about 250 words)

English articles, reports and notes:

a) Keywords in English (up to 5 words) and Japanese equivalents
b) Abstract in English (about 10 lines) providing a statement of the problem and solution
c) Text body
d) Summary in Japanese of the overall argument (about 20 lines)

For all manuscripts, it is the responsibility of the contributor to have the Japanese or English portion of his /her manuscript checked by an educated native speaker of the language.

4) Notes and references should be provided at the end of the manuscript.
All works referred to should be sorted by kind of orthography (Japanese first, followed by European language, and then others) and be listed in dictionary order in each language, as follows:

井上優・生越直樹(1997)「過去形の使用に関わる語用論的要因—日本語と朝鮮語の場合—」『日本語科学』1, 37-52, 国書刊行会

宮島達夫(1972)『国立国語研究所報告43　動詞の意味・用法の記述的研究』秀英出版

Bolinger, Dwight (1978) Yes-no questions are not alternative questions, In H. Hiz (ed.) *Questions*, 87-105, Dordrecht: D. Reidel Publishing Company.

Hudson, Richard (1975) The meaning of questions, *Language* 51, 1-31.

5) Contributors wishing to submit material for inclusion in a supplementary CD-ROM should contact the editorial committee to obtain their consent regarding the format and file-size.

6. Review Procedures

Manuscripts will be read anonymously by two referees appointed by the editorial committee: all manuscripts will be reviewed according to the journal's guidelines. Committee will determine whether a manuscripts is to be published, based upon the results of the referees' reports. All contact between referees and authors (regarding referees' questions, comments and suggestions and the author's response) will be carried out via the editorial committee.

7. Procedures for Manuscript Submission

Manuscripts are accepted and processed at any time. All manuscripts sent to the editorial committee should be accompanied by an information sheet that includes: 1) author's name (with Katakana reading), 2) affiliation and title, 3) university level education and higher (if within the last 10 years) 4) contact address, telephone number, and e-mail address. (In case of a co-authored work, only the primary author's address, telephone number, and e-mail address should be included.), and 5) category of manuscript (article, report or notes). Four copies of

the manuscript (two with author's name and two without author's name) should be sent together. As a rule, manuscripts will not be returned to authors.

8. Corrections and Revisions of Manuscripts

After the editorial committee makes a decision to publish a manuscript, they may request that the author make changes to the style and format. The committee may also make minor format changes at its discretion. Once the decision to publish a manuscript is made, the author will not be allowed to make any further changes to his/her manuscript, except where revisions are requested by referees and the editorial committee.

9. Copyright

1) Authors are responsible for obtaining written consent from research subjects, as well as permission to use any copyrighted material or databases as a source in their manuscripts.
2) The copyright for all papers published in the journal belongs to The National Institute for Japanese Language (according to the Copyright Law of Japan, including Articles 27 and 28).
3) Summaries of published articles appear in *Linguistic Abstracts* (Arizona State University) in English.

Manuscripts should be submitted to:

Editorial Committee, Japanese Linguistics
The National Institute for Japanese Language
3591-2 Midori-chō, Tachikawa-shi, Tōkyō 190-8561 JAPAN

For further information, contact the editorial committee at the above address
or send a fax or e-mail to:

FAX: 042-540-4333
E-mail: kagaku @ kokken.go.jp

『日本語科学』19号　正誤表

p.117　7行目　誤：添田建次郎　→　正：添田建治郎

編集後記

今号には，研究論文３編，調査報告１編，書評１編，研究所報告１編が掲載されています。

今号から，編集委員の半数が交代しました。前委員長の井上優と，三井はるみ，山崎誠が任期を終え，井上文子，熊谷智子（委員長），鈴木美保子，丸山岳彦が新委員として加わりました。これまでの編集委員会の努力を引き継ぎつつ，また新たな展開も目指していきたいと思っています。

その一つが，「特集」です。特集については，前委員長の代で検討を始め，第22号で実現することになりました。日本語研究において注目されるテーマを取り上げ，活発な議論の場を提供することで，さらなる研究への発想や刺激を生み出していこうとするものです。第22号の特集のテーマは「コーパス日本語学の射程」です。近年，各種のコーパスが開発され，コーパスを用いた研究，そしてコーパスそのもののあり方にも関心が高まっています。コーパスを利用することで日本語研究はどのように発展していけるのか，またそのためにはどのようなコーパスが必要なのかなど，様々な角度からの議論が待たれる分野です。お知らせは，本号の112ページを御覧ください。たくさんの意欲的な投稿をお待ちしています。

（熊谷　智子）

編集委員

熊谷　智子（委員長，国立国語研究所）
井上　文子（国立国語研究所）
宇佐美　洋（国立国語研究所）
柏野　和佳子（国立国語研究所）
鈴木　美保子（国立国語研究所）
新野　直哉（国立国語研究所）
丸山　岳彦（国立国語研究所）

『日本語科学』20

2006年10月10日　発行

編　集　国立国語研究所
『日本語科学』編集委員会
〒190-8561　東京都立川市緑町3591-2
TEL. 042-540-4300（代表）

発　行　国書刊行会
〒174-0056　東京都板橋区志村1-13-15
TEL. 03-5970-7421　FAX. 03-5970-7427

印　刷　エーヴィスシステムズ
製　本　村上製本所

（平成18-4）